

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 増田 和也	提出日：平成 24 年 11 月 8 日
東南アジア研究所における職名：研究員（科学研究） * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手・ <b>ポスドク</b> ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生）	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）： 派遣先：Fakultas Matematika dan Ilmu Pengetahuan Alam, Universitas Riau, Indonesia カウンターパート：Ahmad Muhammad 氏 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。（ <b>大学</b> ・研究機関・企業・その他）	
派遣期間：平成 24 年 9 月 18 日 ～ 平成 24 年 10 月 23 日（派遣日数：36 日）	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） ①研究・実験、 <b>②フィールドワーク</b> 、③セミナー、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） <b>①人文学</b> 、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧医歯薬学、⑨総合領域、⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700 字程度） ポスト・スハルト期のインドネシアでは、民主化にともなう国民の権利向上や商品作物の栽培拡大などを背景に、それまで国家が強権的に管理してきた森林地域へ住民が流入・回帰して新たな居住地や耕作地が拓かれている。とくにスマトラ島リアウ州ではアブラヤシ栽培ブームを受けて、アブラヤシ栽培用地を求めた人びとが森林に侵入して農地を開墾している。申請者は、これまで同州内の内陸部（ブララワン県）や沿岸部（ブンカリス県）で村落調査をおこなってきたが、これらの調査はあくまで特定の村落社会の状況を微視的に把握するにとどまり、地域全体の動向を広く把握してきたわけではない。 そこで今回の派遣では、人口増加や農園開発などの統計・文献資料を収集するとともに、州・県・郡・行政村の諸官庁で聞き取り調査を実施し、リアウ州内の森林地域、とりわけブンカリス、シアク、下ロカン、メランティ諸島の各県に焦点を絞り、それぞれの地域における人口動態を明らかにすることを目的とした。具体的には、ジャカルタの統計中央局および国立図書館、リアウ州図書館および統計局で文献資料を収集した他、リアウ州農園局、森林局、社会・労働力局、ブンカリス県地域開発計画局、シアク県スンガイ・マンダウ郡で聞き取り調査を実施した。	
事業に係る研究成果（500～700 字程度） 今回の派遣で得られた成果の一部は、これまで得られたデータと統合し、現在執筆中の原稿（「泥炭地域の社会経済史-交易から土地開発、そして保全へ」「泥炭地域の住民社会-人口構成と土地利用」、川井秀一・水野広祐・藤田素子[編]『熱帯バイオマス社会の再生-インドネシアの泥炭湿地から』[講座生存基盤論 第4巻]）に加筆した。本書については、2012 年 12 月に刊行の予定である。また、アブラヤシ栽培ブームがリアウ州東部の地域社会にもたらした影響についての論文を、人口動態と土地利用変化に注目しながら執筆していく。	